

2003年度版会員ワーク集原稿募集のお願い

本部会員プロモーション委員会

委員長 丸谷方正

前回、2001年度版ワーク集にご協力頂き誠にありがとうございました。お陰様で別表収支の通り44万円程の収入（13年度末）を得ることが出来ました。作品を掲載された方、広告にご協力頂いた賛助会員や企業の方、および会員全体の支えでこのような結果を出せたのではないかと思います。皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

2001会員ワーク集（名簿、簡易名簿を含む）

12・13年度通算収支

収入の部

会員掲載料収支	3,165,000 (130名)
名簿発行準備金	1,000,000
広告掲載料	793,800 (12社)
受託販売代金	532,980 (367冊)

収支合計 5,548,640

支出の部

募集要項印刷	63,105
募集要項デザイン	210,000
ワーク集編集デザイン	2,198,000
簡易名簿編集デザイン	204,000
ワーク集発送代	301,350
(全会員配布、掲載者+1冊)	

ワーク集梱包代	119,490
新刊委託手数料	110,260
封筒代	29,872
ワーク集印刷代	1,474,491
通信費他	112,353

支出合計 5,106,013

収支計 442,637

さて、隔年で発行されている「会員ワーク集+名簿」も出版の時期が近づいていきました。前回、新たに提案した薄い簡易名簿も擦り切れはじめてきたところです。今回から本部出版委員会の仕事であった「From JID」の出版事業を会員プロモーション委員会に移管し、会員ワーク集と合体して1冊にすることで費用と出版活動の効率化を目指し、よりJIDの顔として機能することを目指すことになりました。皆様にはさらなるご協力を仰ぐ次第です。以下、出版方針を述べます。

「From JID」巻頭40頁（予定）

題名「インテリアデザイナーの仕事」

●インテリアデザインの領域で注目を集めている話題を取り上げ、それらを解説するだけでなくそこに関わるさまざまな立場のデザイナーが何を考え、どう取り組んでいるのかを紹介する。

●インテリアデザインに関心を持つ方々には実際のイン

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2002

No.219

9・10

「目次」

● プロモーション委員会からのお願い	1
● ASPAD MANIRA報告	2
● 書評	4
● 第25回文化デザイン会議	4
● 平成14年度第1回理事会報告	5
● 第34回通常総会報告	6
● 平成14年度第1回IT理事会報告	7
● JID NEWS 関東	10
● JID NEWS 関西	12
● JID NEWS 中部	14
● 新入会員の紹介	15
● 追悼文	18
● 計報	18

テリアデザイナーの仕事を様々な側面から知ってもらおう。

●インテリアデザインの領域で仕事をされている方々には今後の動向を知る上で役立つ情報を提供する。

【構成案】

はじめに「インテリアデザインの世界とこれからの課題」

- 1 新しい住居の作り方—スケルトン・インフィル
- 2 健康な空間を手に入れる—シックハウスを解消する取り組み
- 3 サステイナブルなインテリアデザイン—ロングライフ・リユース・リサイクル
- 4 バリアフリーをどうつくるか—ユニバーサルデザイン
- 5 伝統技能でつくるインテリア—職人技能の継承
- 6 利用者の啓発と作り手の育成—インテリア教育

7 職能としてのインテリアデザイナー、D8、資格、他

8 JIDの活動—JID賞、各委員会活動、各支部活動

以上のような基本方針をもとに今後編集を進めていきますが、会員プロモーション委員会だけでこれらをまとめる訳ではありません。各委員会、各支部にご協力を頂くことでJIDの顔として機能すると確信しております。また賛助会員の方にも広告だけでなく記事にも協力して頂きたく計画を進めております。

会員の皆様、ワーク集掲載も含めてどうぞご協力よろしくお願いいたします。

ASPADA MANILA総会報告

国際委員長 中川 帛子

ASPADA MANILA総会と国際会議が10月3日から6日の日程でフィリピンのマニラ市で開催され、国際委員長の中川帛子と交流委員長の坂本和正氏、自由参加の前理事長泉修二さんの3名が参加しました。

会場はマニラ湾に面したコンベンションセンターです。開会に先立ち、ASPADAと同時開催されるフィリピンのインテリア産業関連展覧会オープニングがあり、国家斉唱の後、銅鑼をならして開会が宣言されました。会場には日本に家具を輸出している企業や欧米のインテリアエレメントの展示など、見慣れた展示風景でした。

総会報告

総会は初日の午後から同会場で開催され、ASPADA会員10団体（オーストラリア、台湾、香港、インドネシア、日本商環境設計家協会、JID、マニラ、フィリピン、シンガポール、）が出席、インド、ニュージーランド、タイは欠席でした。恒例により、ASPADA総会開催国PHILの会長が議長となり、下記の3議題を中心に討議を行いました。



マニラホテルでの歓迎ディナー 泉さん、中川、坂本さん

1. メンバー協会の活動報告
2. ASPADA定款の改定の提案
3. ASPADA事務局の提案

会員協会の活動報告：印象的な報告をまとめますと

○台湾：中国市場を視野に入れた活動を重視。“HEADING FOR Shanghi Interior Design Seminar”を開催した。

○JCD（500人）：報酬基準の件成中。恒例の秀作デザイン賞の選定と表彰を継続し高い評価をうけている。

○韓国（600人）：2007年にIFI総会の開催国に名乗り上げる予定であること。イベント“Living News 21Sung Nam”

の成功でインテリアデザインにたいする社会の関心が高まり、来年も継続開催する予定であること。

○オーストラリア（750人）：創立50年の歴史を閉じ2大デザイン団体が統合し、国レベルの団体“Design Institute of Australis”に生まれ変わった。

○香港：The Business of Design Institute of Weekを9月に開催し世界78ヶ国からのスピーカー招聘。成功と高い関心を集めることができた。又、デザイン4団体が連合し、香港デザインセンターの所属会社として登録した。

○インド（2431人）：2003年にIFI総会を主催する。

○JID（541人）：国際レベルの活動としてIPEC 21での国際フォーラムの企画主催、上海でのMY CHAIR企画、情報活動として企画出版（インテリアデザイナーの仕事、FROM JID)の紹介、展覧会やJID賞の紹介をした。

○マレーシア（230人）：インテリアデザイン教育の振興を目的にMSIDインテリアデザイン教育会議を設立。又MSIDを職能団体としての法的認知を得るための運動を継続しており、労働大臣からの強力な支持の言葉を取り付けた。インテリアデザインの業務及び報酬基準ガイドラインの製作を開始。

○フィリピン（245人）：1981年にインテリアデザイン条例が国会を通過して以来、公共建築の建設、歴史遺産建築の修復等の企画、設計にあたってはそれらの企画会議には必ずインテリアデザイナーを加えることになった。PITDの企画でインテリアデザイン教育者会議を組織し、インテリアデザインコースを設けている学校のカリキュラムの見直しを行い、またインテリアデザインコ



総会会場にて 泉さん、坂本さん、中川

ースを有する全ての学校がインテリアデザイン科学士を授与することになった。

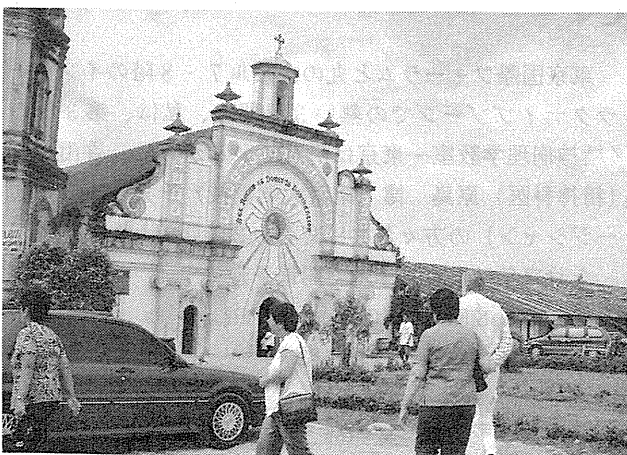
○シンガポール：会員の交流と親睦を活動の中心にして同体のように、ゴルフ大会や会員晩餐会が年間をとうして行われている。デザイン賞の授与なども企画されている。

第2項の議題は固定事務局の設定と議長国に関する条項の改定案なので、第3の議題、事務局設置の提案と一緒に討議することになり、議長は各国の代表から意見を求めた。APSDA創立団体の一つである日本商施設設計家協会JCDは会費の設定を伴う事務局設置の前にすべきこととして、ITを駆使して会員相互の意見交換を行い、メンバー団体のホームページ上に情報を公開し会員相互の自由な交流をはかり、また委員会などの設置によるインターネット上で定期的に共通テーマで検討できるシステム作りを提案した。

フィリピン協会は今回のAPSDA総会開催準備の為に設置した事務局をそのままAPSDAの事務局に提供する用意があり、廉価な維持管理費で利用できる条件をビルのオーナーから取り付けている旨の申し出があった。討議半ばで、この問題はただちに議決できる問題ではないので、創立3団体を含む7委員からの代表で構成する小委員会を作り、より詳細に検討してはとの提案があり、賛成多数で承認され、参加メンバーの人選が行われた。JIDの中川も推薦されたが、7委員の中にはすでに創立団体のJCDがいるので、広く各国の意見を反映した方がいいとの考えから委員を辞退し、代わりにオーストラリアを推薦、7代表が決まった。(JCD、韓国、台湾、マレーシア、香港、フィリピン、オーストラリア)。小委員会は最終日に同所で開催されたが、結果についてはいすれ報告が来ることになっている。したがって、今総会での決議はこの小委員会設定と、代表者欠席のままニュージーランド協会の新加盟が承認されたことのみとなり、最後に2004年に香港で開催決定のAPSDA会議のプレゼンテーションを香港代表が行い、総会は開幕した。

国際会議報告

初日の歓迎晩餐会会場は見るからに由緒有り気なマニ



火山灰に埋もれ、地面が教会の窓まで上ってしまった教会



パンバンが市の家具工場 オーストラリア、韓国、スウェーデン、日本の仲間たちと工場の中庭で

ラホテルで、聞くとところによると戦後マッサーが接収していたホテルだとのこと。国家斉唱を聞いて着席、歓迎と来賓の挨拶のあとAPSDA開催スポンサーのプレゼンテーション延々と行われたのには正直少し驚きましたが、スポンサーもこうした晴れの舞台で自社のプレゼンテーションの時間をもらえればお金の出甲斐がいもあらうといたく感心し、JIDも賛助会員とのお付き合いについては学ぶべきことがあるようで感じたりもしました。各テーブルにも配慮があるようで、賛助会員が均等に着席しているようでした。我々の席にも家具メーカー2社が同席、1社は日曜日の工場見学を提供してくれるメーカーでした。

初日会議の基調講演をIFI理事長のOLLE ANDERSON氏が行い300人ほどの出席者を前に、IFIが現在掲げている、社会に役立つデザインdesign for the worldの理念を話し、デザイン教育のレベルを向上させる為に各国政府に働きかけ、政府のお金でデザイン教育のプログラムを推進するべきと述べました。民意で行政が動き、国民が満足できる社会の実現に成功しているように見受けられるスウェーデン人の思慮を興味深く感じました。2日目の講演では、JCDの会員でもある建築家の橋本夕紀夫氏が伝統の茶室の空間、自然の理解、伝統の材料から学んで設計したという極めて緊張感の高い商業施設の作品を披露しながら自らの設計思想を語りました。インテリアデザインをデコレーションと混同しているデザイン学校の学生やデザイナーの目にはユニークで完成度の高い作品と写ったようで水とガラスを用いて設計した滝のイメージの手洗いが披露されたとき会場からは最初で最後の大きな拍手とウォーというどよめきが起こりました。その他、マニラ在住の建築家の講演も興味深いものでした。歴史的に永い年月他国に統治されてきたフィリピンが外来文化の往来の歴史のなかで、歴史から何を学び、何処へ向かうのかを問いながら現代のマニラをスライドを用いて明確な視点の講演でした。

フェアウエルディナーはモダン建築のトレーダーホテルで開かれ、APSDA 開催の功労者やゲストスピーカー等への表彰、参加国のお国自慢の歌などの披露、フィリピンの伝統の歌と踊りで盛り上がるなか、3日の公式行事が無事終わりました。

6日の日曜は、海外参加者の為に特別ツアーが企画され、泉さんと中川が参加しました。歓迎晩餐会で隣合わせた若いカップルの家族が経営する工場の見学です。マニラの南西30キロのPAMPANGA市にあるJ.B WOOD CRAFT工場は、1991年のPINATUBO火山の火山灰に埋もれた村の近くです。工場への途中、火山灰に今も埋もれているこの村があり、村は一見普通の平地に見えますが、現在人が歩いている地面は火山灰堆積の最上段で、元の地面はその下6メートルから16メートルも下に埋まっているとのこと。訪れた村の教会はかつて教会の高窓だった地上6メートルの所が入口。掘り起こした梁剥き出しのぎりぎりの位置に据えられ、屋根は残った梁剥き出しの上にトタン板が貼られていました。丁度日曜の午前中の訪問でしたが、避難して他の所に移り住んでいる村人達は日曜ごとに元の村の教会にミサ礼拝に集まるのだそうです。村には埋もれた家の2階だけを使って住んで家や屋根の突端だけが白い火山灰からわずかに姿を見せながら放置されたままの工場などが見受けられ奇妙な感覚に襲われました。この村には現在、国際的プロジェクトチームが加わって土壌改良が進められており、火山国日本からも専門家が多く参加しているとのことでした。

最後に訪問した家具工場は以前JETROの指導で日本にも家具を輸出したいとのこともあり、対日感情はとてもいいようでした。社長のMrs. Bituinは工場の2階のショールームを地域の家具工場が生産する家具の展示に提供し、共同のビジネスを展開しているとのこと、製品は装飾が多い大ぶりの椅子や箱もの、照明器具、鏡、ベッド等が中心でした。熱帯の植物や花であふれる工場環境は工場と言うよりはリゾートのようなしつらえで、我々訪問者の為に地球に伝わる伝統的な食事を準備して迎えてくれました。

「文明開化と明治の住まい」 中村主介 著
理工学社・4200円
書評 泉 修二

インテリアデザインという語が英文であるように、日本では職業そのものが外来文化を基盤として発生したといえよう。ヨーロッパに追いつけ、追い越せの日本の近代が、デザインの歴史教育に西欧主体だったとしても無理は無かっただろう。

したがって二十世紀を通していても、インテリアデザインに関する限りは日本の近代と正面から取り組んだ著作自体が少ない。在来の歴史書といえば、欧米対象か、単なる領域の限られた現象の羅列、抽象的、あるいは、生活を形成するソフトでありながら政治的、社会的な視点の欠落しがちな傾向のものだった。言うならば、イン

テリアデザインの日本の歴史過程をダイナミックに取り上げたものはなかなか見あたらない。

此の著作に関してはそのことにあえて挑戦したものといえる。そのため日本のインテリアデザインに関して改めて目を開かされるのは当然として、読み物としても、単にページを繰って写真、図面、イラストを眺めるだけでも面白い。つい図版がカラーで在れば……などと考えるほど、日本近代の試行錯誤を含めたデザイン活動が見えてくるからだ。

中村氏の以前に書かれた書物に「すまいの文化」がある。此の本もインテリアデザインを志す人々の教科書的存在だが、その中に般若心経の「受想行識」という言葉が使われる。インテリアデザインは「五感を通じて自然や社会を感じとり、思いを巡らし行動の指針を決め、人生観或いは世界観を形成する場」だと述べる。今回の書物にもこの思想が根底になっている。

したがって、多角的にデザインを取り上げるには、膨大な資料を必要とする。これには、1969年度に決められた「日本のインテリアデザイン」を契機とする35年間にわたる氏の緻密な全国調査が在ったことだ。例えば、国会図書館の蔵書に限っても、彼の努力によって項日の多いインテリアデザインに関し江戸末期から現代までがリスト化されたことでも理解できよう。これらの努力がこれまで発掘されなかった人々、事物に迄視線を充てることを可能にしたのだ。

副題として「暮らしとインテリアの近代史(上)」とあるように、明治期が中心であり、大正、昭和期は下巻に譲られている。聞くところによると、原稿は既に完了して出版社に入稿済みとか。20世紀の殆どを網羅する下巻の出版が待たれるところである。

ちなみに、此の著作を主体として氏が2002年度の国井喜太郎賞を受賞されたことを付記しておく。

「第25回文化デザイン会議 東京丸の内」
否常識一東京会議・知の異種格闘議
11月1日～3日

東京国際フォーラムと丸の内ビル7・8階のインターラクティブゾーンでの熱い3日間で、私は、第3日の〈精神病理学教室—東京は病んでいるか〉に、香山リカ(精神科医)原島 博(東京大学教授)千葉シダ(ミュージシャン)の方々と共に楽しい2時間でした。

なお来年は東京六本木で開催予定です。

又、この8Fには私の小品、〈L'air de la ville〉都市の空気3連作が飾られています。

関西事業支部 広報部 エコー編集委員 夏原晃子

平成14年度第1回理事会報告

①会議名：平成14年度第1回理事会

②日時：平成14年5月24日（土）13:30～15:00

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、佐々木恵子

（理事） 秋山修治、岩倉榮利、川上玲子、
吉良ヒロノブ、熊谷正信、
小宮容一、須長壮太郎、
八十常充、山下博之、山永耕平、
山本棟子

（委任出席） 森谷延周

（監事） 川上信二、中川千年

（本部事務局） 峰尾 武

⑤議題

I 報告事項

- (1)事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2)第34回通常総会ほか進行予定
- (3)平成13年度会計監査報告
- (4)平成13年度権利停止予定者
- (5)その他

2002年第2回理事会予定 2002年 月 日

II 議案

- 第1号議案 平成14年度予算書訂正の件
- 第2号議案 後援・協賛名義承認の件
- 第3号議案 会員入退会承認の件
- 第4号議案 会費免除の件
- 第5号議案 議事録署名人選任の件

⑥議事

峰尾事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、委任状出席1名で本理事会は成立した」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

I 報告事項

- (1)各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
第1回理事会のため各事業支部及び各委員会とも報告事項なし、但し13年度出版委員会のFROM JIDについて6月に発行の予定と報告あり。
- (2)第34回通常総会ほか進行予定
総会スケジュール及び出席者、委任状提出者合計257名で総会は成立する旨報告、並びに総会懇親会の来賓招待者表（出席）を提示。（事務局長）
- (3)平成13年度会計監査について川上、中川両監事より報告。
- (4)平成13年度権利停止予定者について報告。（事務局長）
- (5)その他

①理事会についての変更（案）

議長より理事会について、今年度は本部事業を見直し、本部で行なってきた事業を各支部に移行し、本部は支部事業を支援するため、予算の範囲内で以下のように理事

会を修正すると提案があり、内容は理事会を年6回から4回にする（5月、9月、1月、3月）。7月と11月はIT理事会とし、議題その他については、メール・FAX等で行なう。但し新入会承認その他重要事案については扱わない。

②合同支部長会議

各支部巡回で全支部長、開催地担当理事及び理事長等の出席で、支部長主体で行なう。又出席支部長等の旅費は理事会負担とする。開催月は、5月、8月、11月とする。

③JID構造改革に関して

JID10年の決算推移、デザイン8団体平成12年度又は13年度決算と財務状況に関する事務局よりの資料を参考に、JIDの財務体質強化のための討議がなされ、改革特別委員会を設置し、理事長、副理事長、総務担当理事及び前・現事務局長により改革に関する検討を行い、理事会等に資料を提供することとした。

④アジアデザイン学会

中国、西安で行なわれるアジアデザイン学会にJIDとして、論文、作品等で協力する。

⑤インテリア工事標準仕様書の作成に協力。

次回理事会（9月）の日程については今後調整決定する。議長は以上の報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 平成14年度予算書訂正の件

上記予算訂正につき事務局長より説明、これに関連し木村議長、秋山理事より、予算全般及び今後の決算、予算編成のあり方、管理費の削減と会員の増強等について補足説明があり、討議がなされ、年度末の決算をスムーズに行い予算編成につなげる努力をする等協力を要請した後、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

上記につき事務局長より5件の説明があり、議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎第13回照明フォーラム「DRAMATIC LIGHTING—光と演出で観せる魅せる」

2002年6月27日（木）

主催 社団法人照明学会 東京支部

◎「第28回大阪国際ナショナル・ギフト・ショー・秋2002」

2002年9月25日（水）～27日（金）

主催（株）ビジネスガイド社

◎「東京国際額縁と絵画フェスティバル2002」

2002年8月30日（金）31日（土）

主催 東京国際額縁と絵画フェスティバル見本市実行委員会

◎「JCD40周年シンポジウム」

2002年5月17日（金）

主催（社）日本商環境設計家協会

◎「JIDA創立50周年記念事業」

2002年10月18日（金）～20日（日）

主催 社団法人日本インダストリアルデザイナー協会

第3号議案 会員入退会承認の件

事務局より入退会9件について説明があり、議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

賛助会員・入会（2件）

株式会社エクスパンド 九州

紹介者：山永耕平

株式会社インターオーシャン 関東

紹介者：川上玲子

正会員・退会（6件）

布施研二・高橋幸世・大越孝子・大阪克彦（関東）山内陸平（関西）松本 豊（九州）

賛助会員・退会（1件）

（株）大丸装工

第4号議案 会費免除の件

事務局より卯野木憲二会員の会費免除に関して説明があり、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第5号議案 議事録署名人選任の件

議長は、山永耕平、秋山修治両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

第34回通常総会 議事録

1. 開催日時 平成14年5月24日（金）

午後3時30分～5時30分

2. 開催場所 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F OZONE セミナールーム

3. 議 事

第1号議案

平成13年度事業報告（案）・平成13年度収支決算報告（案）承認の件及び監査報告の件

第2号議案

任期満了に伴う役員改選の件

第3号議案

平成14年度事業計画（案）・平成14年度収支予算（案）承認の件

第4号議案

議事録署名人選任の件

4. 議事経過

定刻3時30分峰尾 武事務局長の開会の辞で開会した。直ちに「本日の正会員数474名、本日の出席者42名、定款第25条による委任状提出者数218名、合計260名である。

定款第23条による定足数は237名、よって本会は成立した」旨、成立宣言がなされた。

議事に先立ち、峰尾事務局より定款第22条により、本総会の議長は、理事長がこれにあたる旨説明した。

続いて受付にて配布した総会資料の24頁、25頁、26

頁、27頁の差し替えをお願いし、説明した。

続いて木村戦太郎理事長が挨拶に立ち、「平成13年度は1期2年の後半に当り、新体制も成果を求められる年となった。本年度は厳しい状況下、本部・支部の活動がほぼ順調に行なわれた。本部事業としては、会員ワーク集+名簿の刊行、機関紙FROM JIDも近々刊行の予定であり、教育・研究に関しては関西地区でインテリア実験教育が試行され、又活字媒体に表出する若者文化・インテリア意識調査、分析が行なわれた。その他、上海家具製作ツアーはユニークな企画として今後に繋がる。JID賞は秀作が選考され、展示ギャラリーへは多数の来場者を得た。

支部活動については、各々の事業支部が独自の活動を企画展開し定着し始めている。特に関西事業支部のECHO賞は多くの若者の応募を得、JIDの活動が広く紹介された。

その他、JID関連諸団体との連携や共同研究は、経済産業省デザイン政策チームのデザイン委員会からD-8に発展し、その活動としてD-8ウェブサイト立ち上げはその第一歩として意義深い。インテリア4団体によるインテリア工事標準仕様書も秋頃刊行の予定であり、IPEC21協賛事業国際フォーラムも大きな成果を収めた。今後JIDとして主体性を堅持した協調を志向したい。今後会員の拡大と合わせ、事業の推進に期待し、平成13年度事業報告（案）・平成13年度収支決算（案）について審議いただきたい」旨述べた。

理事長挨拶の後、議事に入った。

第1号議案

平成13年度事業報告（案）及び収支決算報告（案）、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録を配布された議案書に基づき、事務局より、それぞれの内容について報告が行なわれた。引き続き、川上、中川両監事を代表して川上監事より、去る4月25日東京において会計監査を行なった結果が報告された。その後質疑に入り、2001年ワーク集+名簿の印刷部数及び販路、支部繰越金、及び理事会出欠等について質疑があり回答、特に支部繰越金については協会全体のものであると回答、質疑応答の後、議長は総会に諮り、賛成多数でこれを承認した。

第2号議案

任期満了に伴う役員改選の件につき、配布された議案書に基づき、議長より候補者の説明が行なわれた。理事長に木村戦太郎、副理事長に阪井良種、佐々木恵子、理事に秋山修治、岩倉榮利、川上玲子、吉良ヒロノブ、熊谷正信、小宮容一、須長壮太郎、森谷延周、八十常充、山下博之、山永耕平、山本棟子、監事に川上信二、中川千年、以上につき議長は総会に諮り、賛成多数でこれを承認した。

第3号議案

平成14年度事業計画（案）・収支予算（案）につい

て議長より総括説明があり、「平成14年度は本部・支部各々が本来担うべき事業を見極め、本部・支部の交流促進、活動の活性化を図りたい。具体的には本部事業委員会を廃止し、事業活動を支部に移管。年6回の理事会を減らし、巡回支部長会議（仮）を数回開催し、人的交流を促進する。さらに理事長・副理事長2名・総務担当理事による『改革特別委員会』を設置、財務と実行可能な企画案を策定したい。本部・支部事業についてはJIDの情報発信力は事業内容に係っており、各位の一層のご努力をお願いしたい。他団体との協調の際も、JIDのレベルが判断される。最後に財務体質強化・組織基盤強化・協会の活性化のため会員拡大は必須であり、会員各位の一層のご努力をお願いしたい」と挨拶。

その後それぞれにつき事務局長より説明が行われ、最初に配布された差し替え資料についても説明がなされた。その後質疑に入り、教育・研究委員会Aの研究成果は協会のもので学会での発表は不適当であるとの意見が出され、削除する。改革特別委員会に関する質疑があり、改革特別委員会の設置は重要だが問題は次の1.客観的立場で審議するという意味で委員会のメンバー構成の適正化。2.テーマ、期間の設定。3.審議結果の会員への情報公開等いくつかの意見が出た。議長が応答に立ち、改革特別委員会は改革特別委員とし、構成するメンバーに対する考え、テーマ及び情報については理事会等を経て会員に公開すると説明した。

以上につき議長は総会に諮り、賛成多数でこれを承認した。

第4号議案

議事録署名人選任の件につき、議長より腹案として、安藤 孚、安武満智子会員（いずれも関東事業支部所属）が提示された。

以上につき、議長は総会に諮り、賛成多数でこれを承認した。

5. 閉 会

議長が挨拶に立ち、本日の議事案件の審議に対する協力に感謝する旨の謝辞が述べられ、5時34分、第34回通常総会は滞りなく終了した。

〔 平成14年度・第1回IT理事会報告 〕

①会議名：平成14年度・第1回IT理事会

②日 時：平成14年7月19日～31日

③場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④参加者：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、佐々木恵子

（理 事） 秋山修治、岩倉榮利、川上玲子、
吉良ヒロノブ、熊谷正信、
小宮容一、須長壮太郎、

森谷延周、八十常充、山下博之、
山永耕平、山本棟子

（監 事） 川上信二、中川千年

（事務局） 峰尾事務局長

⑤議 題

I 報告事項

(1)各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2)平成14年度収支状況報告（6月末現在）

(3)その他

II 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 名誉会員推挙の件

第4号議案 APSDA（マニラ）総会及び会議派遣人事の件

第5号議案 議事録署名人選任の件

⑥議 事

メール及びFAXにより7月19日、本理事会の議題及び資料を配布。質疑・討議をFAX・E-mailにて行い、それをふまえ7月30日、議長、副理事長で意見をまとめた。31日、議長より賛成多数により、報告事項は了承、また議題5件は承認された旨参加者全員にメール及びFAXにて通知され、全員異議なく、本理事会は終了した。

I 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（山下）

「事業推進委員会」（顧問：泉修二、長岡貞夫、委員長：村元俊子）本部から移行のマイチェア企画活動開始、及び事業開拓を念頭に企画を討議。「ユース統括委員会」（顧問：田辺麗子、委員長：岡部史子）ユース会員減少対策を討議、勧誘チラシ作成、交歓会企画。「研究活動委員会」（顧問：清水忠男）スケルトンインフィル研究グループ（リーダー：白石勝彦）・リフオーム研究グループ（リーダー：山口慶之助）を発足。「組織委員会」（委員長：佐藤健一）遠距離会員の組織化、宇都宮、山口慶之助会員と意見交換、支部内北関東部会立ち上げ合意。「情報委員会」（委員長：山本英嗣）関東支部会員メールアドレスを集計中、又JID及び関東ホームページのあり方について討議。「10周年記念事業部会」（リーダー：佐藤健一）遠距離会員も参加できる、遊び心、面白い、得した気分や楽しみのある企画を検討と報告。

◆中部事業支部（熊谷）

7月20日支部会議を実施、事業計画を確認。

名古屋国際デザインセンターで・インテリア相談会開催を計画。同センター及び新聞、雑誌等情報媒体に対してインテリアデザインの企画を持ち込み、協会活動を活発化する。2002年10月開催のICOGRADA（国際グラフィックデザイン会議）への協力。中部デザイン

団体協議会 (CCDO) への協力。アオード委員会、EXPO委員会、デザイン展委員会、デザイナーズクリスマス委員会、デザインコミッティ推進委員会等に対応と報告。

◆関西事業支部 (八十)

「総務部会」開催 (5月、6月)、及び第2回支部長、副支部長、理事により総務会議を実施 (7月7日)。「情報部会」エコ誌委員会8月末を目標に創刊第20号を発行予定。「研究・発表部会」第1回研究委員会 (5月30日)「総合的な学習時間におけるインテリア教育の可能性について」及び同教育実験実習に参加 (7月4日)、又「トランスポーテーションのインテリアデザインについて」等検討。7月5日ホテル日航ベイサイド大阪見学会実施。USD-O (大阪デザイン連合機構) 総会及び記念フォーラムを実施。USD-Oは14年度事業計画を予定。「JID-ACT Kansai」総会実施 (5月25日) 等報告。

◆九州事業支部 (山永)

役員会、例会の定期開催

新旧役員会を実施 (4月27日)・理事会報告、新役員の役割、九州支部会則、選挙規程改定、新年度支部事業・例会のあり方、九州インテリアデザイン展開催時期と内容、福岡デザインリーグへの参加、「TRY九州の会」発足、九州事業支部ホームページ利用方法と内容を討議。九州事業支部総会を実施 (4月27日) 平成13年度事業報告と決算、平成14年度事業計画と予算を決定。アンティークオルゴール展見学。7月27日役員会を(株)エクスパンド(新賛助会員)で予定。「福岡デザインリーグ」への参加 (6月10日) 企画委員会、(6月27日)実行委員会。九州産業大学 記念講演への協力 (会員3名参加)。

九州事業支部ホームページ開設等報告。

◆総務・組織委員会 (秋山)

「総務委員会」構成員の報告。組織及び委員会の構成について討議、12年度・13年度の活動経過を報告、及び総務・組織委員会の役割確認。JIDの組織改革、会員数、年会費と健全財政との関係等討議、又デザイン団体協議会との関係、業務と報酬、健保 (文芸美術国保)、新入会員の委員会活動参加等を討議と報告。

◆国際・交流委員会 (川上)

第1回国際・交流合同委員会を開催し、新委員長、委員の紹介、支部との連絡連携、国際・交流両委員会の共同活動の方向性等討議。今後定例委員会は合同で開催。『2002年APSDA』開催要項の抄訳をE-mailnewsに掲載。IPEC21・2002について坂本和正交流委員長よりIPEC21実行委員会との国際フォーラムセミナー企画要請について報告があり、対応及び内容の検討開始等報告。

◆情報委員会 (インターネット)(吉良)

ホームページを改訂、7月5日に修正版をアップロード。

パソコンに関するアンケートを実施、(7月17日)287通 (回収率60%) 今後JID情報をE-mail通信にする準備を実施。

◆情報委員会 (JIDニュース)(吉良)

次号発行は9月末予定、基本的には年4回発行予定 (9月、12月、3月、6月末) を予定。

内容は会員の「顔や興味、想い」がみえる記事の提案。ページレイアウト及びビジュアルデザインの刷新を検討。その他13年度の事業であるがFROM JIDが7月20日に刊行等報告。

◆教育研究委員会A (小宮)

「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育実験実習を、7月4日京都市立紫野小学校で5年生42名に実施。今後同校にて3年生又は4年生を対象に秋頃行ないたい旨報告。

◆教育研究委員会B (須長)

「現代若者気質調査」を1年継続、資料を更に分析補充を行なう。又JIDホームページ、及び冊子にまとめると報告。

◆教育研究委員会C (山本)

6月、7月委員会開催、セミナー内容等を討議。昨年までのHumanizing Designを踏まえて、11月頃を目指してセミナーを検討中。インテリアデザイナーは、バリアフリーやユニバーサルデザインを日本の暮らしの中で提案、実践している。これらを更に考えていく中で様々な専門家の助言を頂きながら、インターフェイスとしてのユニバーサルデザインを切り口とし、より人間的にという大きな括りの中でHumanizing Designというキーワードで考えていくと報告。

◆デザイン保護委員会 (佐々木)

6月20日、経済産業省より海外でのデザイン模倣調査依頼が日本デザイン団体協議会 (D・8) を通じてあったが、事例が集まらなかった。経済産業省でヒヤリングがあり、JID関係から安藤孚、井上昇、賛助会員岡村製作所大浜賢三、の3氏が出席。又7月中に委員会を開催予定と報告。

◆会員プロモーション委員会 (森谷)

「会員ワーク集+名簿」に機関紙FROM JIDを合体させる、内容はJIDが対外的に発信することを中心に近年の活動、成果、新しい動向など盛り込む。「OZONE」企画展に関する各委員会、支部等の提案があれば橋渡し役をすると報告。

◆選考委員会 (岩倉)

ゲスト審査員 内田みえ (コンフォルト編集長)、柏木浩一 (建築家) の2氏に決定。ホットな作品や卒業制作等出しやすく対象時期を4月1日より6月末にし、JIDホームページにも昨年度受賞作品をアップロード。JID賞をサポートするワーキンググループ立ち上げを予定、展覧会は平成15年1月16日~28日OZONEロードサイドスクエアを予定と報告。

◆木村理事長報告

日本デザイン団体協議会（D・8）の活動と運営等について説明、デザイン分野や共通の問題を協議し、産業経済の発展と生活文化の向上、デザインの普及、啓蒙、教育と中小企業、地場産業等の発展を支援する。又現在進行中の「D・8」Webサイトは「日本デザイン団体協議会」のサイトとして活用する。インテリア4団体による「インテリア工事標準仕様書」の中間報告会が行なわれ、本仕様書の活用は、インテリアデザイナーの職業確立にも繋がるものと期待される。インテリア学会からの協力要請があった「アジア・インテリアデザイン国際会議シンポジウム」への、2000/2001JID賞インテリアスペース部門写真提供に関し対応。7月11日、NIF需要開拓委員長大槻秀人氏よりNIF・中学校のインテリア体験学習への取り組み中間報告、又協力要請もあり検討する等報告。

(2)平成14年度収支状況報告（6月末日現在）を事務局より配布報告。

(3)その他

・平成14年度第2回理事会予定 後日決定

・訃報 佐藤 均（関東正会員）

平成14年6月10日没、享年62歳

浅野正道（関西正会員）

平成14年7月1日没、享年72歳

・平成14年度第1回理事会における理事会承認事項、会員入会承認事項の扱いについての変更。「IT理事会では扱わない」を「会員の資格細目（イ）以外のものは扱う。又賛助会員についても扱う」に変更（事務局提案）

Ⅰ 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

上記につき、事務局長より下記3件の提示説明があり審議され、3件承認。

◎「デザイン・コンペティション海南—the 4th—」

2002年8月19日～2003年3月上旬

主催 和歌山県海南市・海南市デザイン・ビエンナーレ実行委員会

◎インテリアの専門家を対象にした展示会及び会議「IPEC・21・2002」

主催 日本インテリアプランナー協会協議会

◎「第17回全国高等学校インテリアデザイン展」

平成14年度JID理事長賞

主催 (財)大川総合インテリア産業センター

第2号議案 会員入退会承認の件

上記につき、事務局長より下記6件の提示説明があり審議され、6件承認。

入会・正会員

増澤信一郎 推薦：秋山修治、峰尾 武

蓮見賢一郎 推薦：秋山修治、峰尾 武

森 順子 推薦：吉田ジュンコ、峰尾 武

入会・賛助会員

凸版印刷(株)建装材事業部企画デザイン部

担当：梅崎 健

紹介者：川上玲子

退会・正会員

中小路泰久（関西）

杉本久美（九州）

第3号議案 名誉会員推挙の件

上記につき、事務局長より下記6名の提示があり、審議され、6名承認。

中里信正（中部事業支部） 藤野義弘（関西事業支部）

栢原秀榮（関西事業支部） 光藤俊夫（関東事業支部）

三輪正弘（元名誉会員） 長 大作（元名誉会員）

第4号議案APSDA派遣人事の件

具体的な人事が決まらず、検討可能な段階で、正副理事長が検討、決定することを承認。

第5号議案 議事録署名人選任の件

山本棟子、岩倉榮利両理事の承認を諮る。承認。

関東事業支部10周年記念に向けて

JID関東事業支部 支部長：佐藤健一

関東事業支部は支部総会を開催するようになり、本部から自立して以来、来年度10周年を迎えることとなります。この祝に際し、支部長としましては過去9年の支部活動を総括し、関東支部会員の皆様にご報告するとともに、ひとつの区切りとした10周年記念事業を計画しております。

関東事業支部の今年度の活動テーマは参加型支部活動です。遠い地方の関東支部会員の方々を視野に入れ、いくつかの構想を副支部長、委員長共々検討し、実行に移してまいりました。そのひとつにJID関東ネットがあり、7月に立ち上げることができました。反響もあり、地方の会員の方々から貴重なご意見をいくつもいただいております。今後益々、メールネットは重要性を持つものと考えられます。ネットは距離を無くします。関東事業支部北関東部会、東関東部会に続き、北海道部会が立ち上がる可能性が出てまいりました。新しくメールアドレスを得た方は是非とも知らせていただき、お近くの部会に参加していただきたいと思っております。

10周年記念事業にあたっては、ひとつの内輪のお祭りとして、おもしろ心で関東支部会員の皆様が冷やかし半分であっても、賛助会員の方々を含め、全員参加していただけるような企画を練っております。後日、ご案内をお届けしますので、楽しみにお待ちしております。

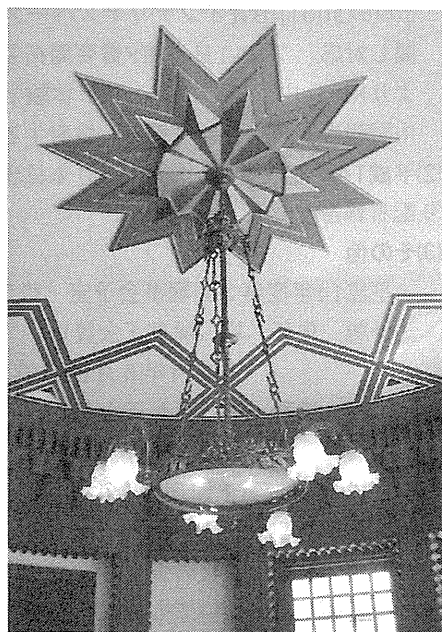
旧小笠原伯爵邸 見学記

平井 美蔓

発刊が待たれる〈暮らしとインテリアの近代史（下）〉は大正・昭和期近代建築を軸として展開されるようだ。その著者、中村圭介氏の案内で、旧小笠原伯爵邸を見学する機会をもつことができた。昭和2年（1927）竣工。30代当主・小笠原長幹伯爵の邸宅は、330坪のスパニッシュ式洋館である。慶應義塾大学図書館などの設計例がある曹根中條設計事務所の作品で、敷地内に入っすぐに遠望できるエントランスキャノピーあたりに、独特の優しさをもった雰囲気がかたどっている。邸内の天井や



小笠原伯爵邸玄関



小笠原伯爵邸喫煙室

窓のステンドグラスは復元されて、当時の華やかさを偲ばせる。円形喫煙室の外壁を飾る陶片類はまだ修復途中であるが、その手工芸的な魅力は館全体の個性ともなっているようだ。この喫煙室のインテリアは、礼法小笠原流宗家建立当主の生きざまを物語るようで味わい深い。

この施設は2002年6月、レストラン小笠原伯爵邸としてオープンした。スペイン人総料理長のプロデュースによる料理は、屋内のインテリアテーストとひびきあうよう工夫されていて、各種パーティやウェディングセレモニーにも使用できるという。住居からレストランへの改変で、夫人室まわりは現在厨房として使用され、むかしの暮らしの痕跡はない。

重要文化財保存修理工事報告書は大変面白い読み物で近代建築を訪ねるとき、その場所がもつ記憶や、再現にいたる手続き、工事関係者の修復に対する思い入れなどを知り得る手だてとなる。小笠原邸においてもその種の記録が世にでることだろうが、ここにいたる多彩なストーリーがあるにちがいない。九州小倉藩主・小笠原家の

下屋敷跡は現在1000坪、かつては20000坪といわれた。では、とあたりを眺めまわして当時の風景をたちあげてみたいものだが、新宿・河田町ではその証しとなる地形や事物を感じることは難しい。いきいきと語り継がれる施設の一つでありつづけてほしい小笠原伯爵邸である。

今後の活動計画について

ID関東事業支部 情報委員会 委員長 山本英嗣

現在、関東事業支部情報委員会（関東情報委員会と略します）では

- 1 JID関東NET拡大充実。
- 2 本年度内関東事業支部ホームページの開設。
- 3 関東事業支部10周年記念出版計画を活動の中心としています。

JID関東NETについて

e-mailによる情報の送受信『JID関東NET』は

- ・遠距離会員の委員会活動への参加
- ・迅速な情報の発信
- ・緻密な情報の伝達

等、多くのメリットがあり、JID関東事業支部の活動の大きな力になって来ています。

現時点での『JID関東NET』送受信者は正会員約140名、賛助会員25社になっています。年度内目標として正会員200名、賛助会員40社と送受信可能を目指しています。また正・賛助会員の情報発信にも積極的に利用していただけよう検討していきます。

関東事業支部ホームページについて

- ・JID関東事業支部の一般ユーザーへの訴求。
- ・他団体、企業とのリンクによる情報の集約化

等、多くの可能性をホームページに求めて行きます。

関東情報委員会は随時活動のメンバーを募っています。関心をお持ちの方は是非下記へご連絡下さい。また関東情報委員会へのご意見も下記番号で伺います。

関東情報委員会 委員長 山本英嗣 fax03-3268-1272

『JID関東NET』送受信利用を希望の方は下記にe-mail addressを送って下さい。

仕事に役立つ情報を送受信出来ます。

JID関東 NETjid-kantounet@msc.biglobe.ne.jp

「JID関東パートナーズ」発足について

関東事業支部 專業推進委員長 村元俊子

今年度、関東事業支部は活動の活発化を計るため各種行事に会員の積極的な参加を呼び掛けており、参加しやすい研究会・地区部会などの組織化を計っている。

今般、関東事業支部では関東エリア内の賛助会員と正会員の交流を深め、協力して社会に情報発信をする事を目的として「JID関東パートナーズ」を組織した。

その発足にあたり10月24日に懇親会を開催し、14企業・17名の賛助会員と17名の正会員が参加し、盛況であった。賛助会員企業にインタビューを行うと新製品情報などを積極的にアピールする場となり、企業の情報発信に対する意欲を実感した。

佐藤支部長からはお互いが協力する事で社会的なインパクトのある情報を発信し、業務にも寄与することを目的とした今後の活動企画について以下の説明を行った。

- 1 賛助会員企業の製品情報やイベント情報を継続的に正会員に伝える機会を充実する。
- 2 Eメールネットを通じて賛助会員企業と正会員の情報交換を行う。
- 3 JIDと賛助会員が相互に協力して、セミナー・デザインコンペなどを企画する。
- 4 JIDと賛助会員同士が提携・協力して一般ユーザーに総合的なインテリア情報を提案し、互いの知名度を高める。

などが主なものであるが、今後この組織が活発に活動を続け、JID協会が賛助会員企業・正会員双方にとって有意義なものであることを確認出来ればと願っている。



インテリア教育実習

研究委員会 委員長 鈴木 儀雄

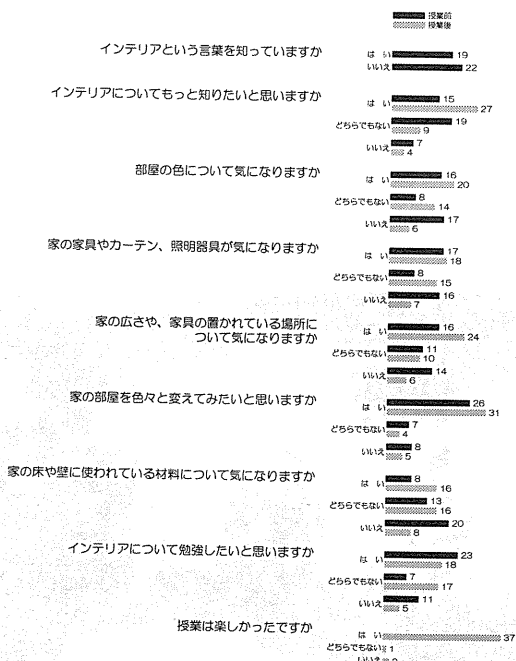
2000年度より本部教育研究会Aグループ（加藤力会員）のもと「総合的な学習の時間」におけるインテリア教育実習をテーマに研究を重ねてまいりましたが、今年度よりJID関西事業支部研究委員会と本部教育委員会（小宮容一担当理事）との合同で“インテリア教育実習”をテーマに研究を進めることとなりました。

合同での第1回研究実習を7月4日に正田会員のご協力で、奥様が校長をなされている京都市立紫野小学校5年生（42名）を対象にインテリアの実験実習を行うことができました。

我々にとっては暑さとの戦いでしたが児童たちにとっては自由に自分の部屋を考え、立体で創作できることが非常に楽しかったようで、再度実習を行いたい児童がほとんどでした。このように現場で児童を見ていますと、現在の授業はあまりにもマニュアル通りのものが多すぎるのでは無いかと改めて感じました。

もっと自由に、もっと楽しく、もっと夢をのばせるよ

京都市立紫野小学校 5年生（41名）
アンケート結果



うな実習をもとに小学生のインテリア実習用教科書を作成しようと検討しております。

「かん月会」発足

関西事業支部総務部会長 山本紗代子

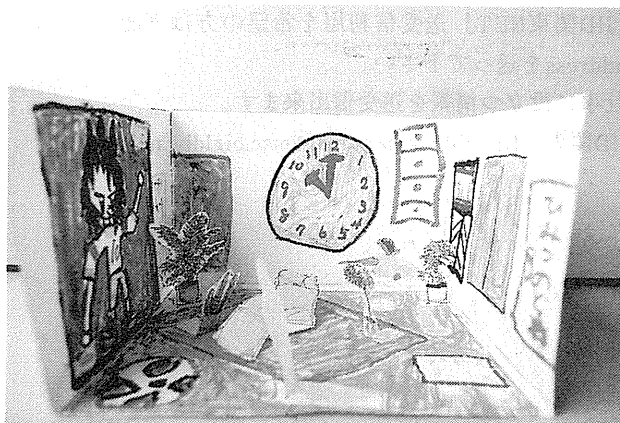
副支部長、監事を新設、組組も新たにスタートした平成14年度の関西事業支部では、支部長の発案で運営部会での議事進行の充実と時間短縮等、よりスムーズで密度の濃い支部活動に向け、運営部会の「間の月」に支部長、副支部長、支部理事、総務と急を要する議案のある部会長が集まる会「かん月会」をスタートさせました。

9月30日、場所は清家支部長事務所。開催のお知らせ名は「観月会」。予想を越えた運営部会メンバーが集まり関西事業支部の熱気に総務として心強く、うれしい第1回目となりました。「かん月会」の正式名もメンバーの皆様「熱き想い」の結果、毎回「総務部会長のお好きなように」という誠に関西支部らしい？所に落ち着き、奇数月に思わぬところで感性を問われる事になってしまいましたが、メンバーの皆様と共に支部活動を支え「JID関西事業支部マジック」を創り出す基の一つとして、楽しくて意義ある「会」開催を目指す事に心ししたいと思っています。

第1回府中デザイナーズBOX展

展覧会委員長 七條 健

一昨年より、広島早府中市の府中家具工業協同組合との、コラボレーション事業として、府中デザイナーズBOXプロジェクトを立ち上げました。現地での新作展は盛況の内に幕を閉じましたが、大阪でも作品をお披露目しようと、11/1～5日の予定で大阪市南港のATC（大阪デザイン振興プラザ）で、『第1回府中デザイナーズ



BOX展』が開催されます。展示内容は、現物作品、デザイン作業のプロセスが理解できるパネル、そして現地の高い技術をアピールできる、“府中物語コーナー”と盛り沢山で、デザインを楽しく理解していただけます。

この時期はデザイン性の高い催しも多く、沢山のギャラリーの来展が予想でき、楽しい展覧会になることとされます。JID関西展覧会委員会としては、理解度の高いプロだけでなく、学生、一般のユーザーにも分かり易い展示をこころがけていきたいと思っています。そういう積み重ねが、生産地と消費地の距離を縮めてくれるものと信じます。

大阪天満宮と天神橋筋商店街でのイベントに参加して

関西事業支部 エコ誌委員長 疋田友一

大阪のデザイン団体11団体で構成された「USD-O大阪デザイン連合機構」の事業本部委員会で検討されてきた活動で「デザインと大阪の街物語（街へ出よう、前進する大阪のデザイン）」と題したテーマの初めての企画として、活性化に活発な天神橋筋商店街で何か出来る事をしようという事になった。

天神橋筋商店街は日本一長い商店街で1丁目から丁目まであり、NHK朝の連続ドラマ「まんてん」の舞台にもなっている。この天神橋筋商店街連合会会長の土居年樹氏が名物会長で、ことのほか商店街への思い入れが深く、8月には「天神さんの商店街（街いかし人いかし）」と題し、街商人（まちあきんど）のつぶやきを本に編み出版され、テレビ・新聞にも常に出演されている。話しの内容はとてもおもしろく、今年の関西事業支部会でも、講演をして頂いた方である。この土居会長が天神さんの千百年祭を記念して、全国の天神さんの門前町（商店街）の商人を大阪に集め、「天神サミット」を開催すると言う事で、USD-Oとしても、その時期に合わせてイベントを行う事になったのである。大阪府インテリア設計士協会（OIS）から提案された次の2案にJIDを初め他団体が協力すると言う事で行われた。

1) 天満宮及び天神橋筋商店街のデジタルスケッチ展

・天神橋筋商店街を描く

日時 平成14年10月10日～12日

場所 天三おかげ館（天神橋筋商店街3丁目）

・天満宮を描く

日時 平成14年10月17日～19日

場所 天満宮境内

デジタルスケッチとは、写真のデータをベースにして、パソコンを活用しながら様々な雰囲気のある絵画作品を制作する手法のことで、関西のレンダラーを中心としたデジ

タルスケッチを制作する有志の集団「デジタルスケッチ倶楽部」の協力を得て、講習会を受けながら、JIDからは山崎副会長と私の2人だけでしたが、初めての作品制作に挑戦しました。デジタル画像編集のソフト、フォトショップやピラネージが使えるれば誰でも簡単に出来ます。皆さん、一度挑戦されては如何ですか？楽しいですよ！でも、実際にやってみると、なかなか奥の深いものです。

2) 集楽

・日時 平成14年10月19日

・場所 天神橋筋商店街・天満宮境内

集楽とは天神橋筋商店街に「集まろう」、天満宮境内で「楽しもう」の略で、次の3つのイベントから成り立っている。

①住まいのミュージアム見学会

②天満宮境内フリーマーケット

③USD-O交流パーティー

天満宮境内フリーマーケットはデザイナーのこだわり品を集め、売値を付け、販売価格の80%を出品者に返し、10%商店街へ、残りの10%をUSD-Oの活動費に当てると言う方法で行われた。テント張りのスペースに、JIDからの千点を含め、ほぼいっぱい出品があった。ビールのワンコイン（100円）販売や似顔絵コーナー、マジシャンコーナーなどがあり、楽しい企画であった。当日は途中から雨が降り、客の出足が鈍ったが、各団体から出た売り子さんの努力の結果、17万円強の売り上げがあった。

夕方6時から、商店街の中の居酒屋さんで、交流会が行われた。2000円という安い会費で食べ物と1人にビール大瓶2本付き、お酒やつまみも持ち込みOKと言う、大阪の中でも特に安い天神橋筋商店街ならではの企画であった。各団体から約70人の出席を得、お互いに楽しく交流を深める事が出来ました。

この2つのイベントで、デザイナーと商人と街衆が一体となり一つの事が出来た事に、大きな意義があったと思われる。大阪の街よ！元気になれ！！

JID-ACT Kansai活動報告書

JID-ACT Kansai 会長 佐々木由紀子

・定例役員会 毎月第1火曜日 19:00～

場所：スズキ デザイン オフィス

・10月19日（土）USD-O主催アートフリーマーケット
7名参加 場所：天神橋筋商店街

・10月27日（日）JID-ACT Kansai主催バーベキュー
26名参加 場所：花簿記念公園

『中部事業支部 実施事業活動報告』

事業委員長 小林 修

〈時期〉平成14年9月13（金）～9月16（月）
 〈場所〉名古屋市中小企業振興センター（吹上ホール）
 〈名称〉中部電力「住まいの電化フェア2002」
 〈内容〉「住まいをより美しく、彩る事を応援する」をテーマに中部支部会員がセミナー形式のインテリアコーディネート講座を展開し、インテリア相談コーナーでのアドバイザーを務めた。
 〈経緯〉広告代理店より中部電力の展示会における新たな試みとして、JIDの協力を得られないかと相談を受け一般市民との交流を図るチャンスでもあり、地方企業と広告代理店の傘下であるが参画しました。
 〈結果〉セミナーでは会員各氏が持ち時間30分の短い時間でそれぞれの分野から興味あるトークを展開頂いた。コーディネート講座では、フラワーアレンジの講座、ガラスアートの講座を開き、来場者の興味をひいた。インテリア相談コーナーでは、会員が待機した。
 〈総括〉短い準備期間にも関わらず、初めての試みとはいえ会員が中部事業支部の経験値を高めて頂きました。又、今後の事業への展望をつけて頂き感謝します。反省すべき点は、JID中部のスタンスをもう少し明解にし、運営面までアイデアを提供できたらと考え今後とも皆様

からのご意見を多く頂き、更なる事業の案を練りたいと考えています。よろしくご指導願います。

第2回支部長会議

中部事業支部長 安藤 清

8月24日昨年大阪に続き名古屋で開催した。支部長会議のあり方、目的、会員拡大、会費、委員会活動、組織、情報、他多くの問題を検討し始めました。また10月6日より第1回ネット4支部合同会議を開始、我国のインテリアの職能団体の目指し役員、会員皆様自身の問題として検討を始めました。



セミナー風景

インテリア相談コーナー

【 新 入 会 員 の 紹 介 】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
はすみけんいちろう 蓮見 賢一郎 会員番号 1205 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	HASUMI. LLC 45 Rockefeller Plaza, suite2040, 630 5th Av. NY. 10111. USA 東京都杉並区阿佐ヶ谷北1-44-6 TEL 03-3339-1784 FAX 03-5364-7156 Hasumi Design @ aol. com 秋山 修治・峰尾 武
ますざわしんいちろう 増澤 信一郎 会員番号 1206 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) 石井建築事務所 静岡県熱海市水口町5-37 〒413-0016 TEL 0557-82-4171 FAX 0557-82-4174 iaa@shizuokanet. ne. jp 静岡県伊東市宇佐美1129-1 〒414-0001 TEL・FAX 0557-48-8388 秋山 修治・峰尾 武
もり しゅんこ 森 順子 会員番号 1207 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) 日立ハウステック リビングザインセンター千葉 千葉県千葉市中央区新千葉2-7-2 〒260-0031 TEL 043-248-9720 FAX 043-248-9748 j-mori@hitachi-ht. com 千葉県柏市大室1499-121 〒277-0813 TEL・FAX 04-7134-1550 吉田 ジュンコ・峰尾 武
ひら お けん し 平 尾 謙二 会員番号 1208 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	スペース・ジェイ (株) 東京都千代田区神田駿河台4-2 〒101-0062 TEL 03-3252-2798 FAX 03-3252-2731 khirao@space-japan. com 神奈川県横浜市青葉区新石川1-14-20 〒225-0001 TEL・FAX 045-904-2185 西村 太志・安藤 真吾
わた なへ まこと 渡 邊 真 琴 会員番号 1209 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	グレースー級建築士事務所 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルIT棟10-D-1-24 〒559-0034 TEL 06-6569-3011 FAX 06-6569-3012 info@grosis-a. com 大阪府大阪市阿倍野区文の里4-11-17-101 〒545-0034 TEL 06-6627-4096 佐々木 恵子・清家 淳一

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
みや な ち か 宮 田 千 加 会員番号 1210 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	グレースー級建築士事務所 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルIT棟10-D-1-24 〒559-0034 TEL 06-6569-3011 FAX 06-6569-3012 g-7300@osaka-design.co.jp 大阪府大阪市西区北堀江1-16-5-601 〒550-0014 TEL 06-6543-1718 佐々木 恵子・清家 淳一
うえ なか ひろ と 上 中 洋 人 会員番号 1211 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	アドバンスド・クリエイティブズ 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルIT棟11F 〒559-0034 TEL 06-6613-2821 FAX 06-6613-2822 大阪府大阪市城東区鳴野西5-1-2-909 〒536-0014 TEL 06-6962-0270 FAX 06-6964-3152 acs@iwa.att.ne.jp 佐々木 恵子・清家 淳一
ふじもと けん い ち 藤 本 賢 一 会員番号 1212 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	アドバンスド・クリエイティブズ 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルIT棟11F 〒559-0034 TEL 06-6613-2821 FAX 06-6613-2822 兵庫県神戸市東灘区甲南町1-1-35-502 〒658-0084 TEL・FAX 078-436-7850 kenichi@iwa.att.ne.jp 佐々木 恵子・清家 淳一
つちや まさ お 土 屋 正 夫 会員番号 1213 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	三越環境サービス 東京都大田区東六郷3-1-19 〒146-0046 TEL 03-3736-3329 FAX 03-3735-2836 神奈川県川崎市多摩区長尾5-1-10 〒214-0023 TEL・FAX 044-922-7613 山下 博之・日方 一城
ばん ば ひで ひ こ 馬 場 英 彦 会員番号 1214 	<自 宅> <推 薦 者>	奈良県生駒市西松ヶ丘21-5 〒630-0246 TEL 0743-75-1658 FAX 0743-75-2804 bamba@m4.kcn.ne.jp 八十 常充・小宮 容一
たか はし まさ し 高 橋 昌 司 会員番号 1215 	<勤務先・事務所> <自 宅>	(株) ブラインドフェイス 東京都渋谷区渋谷3-19-1-9F 〒150-0002 TEL 03-3486-7106 FAX 03-3486-7105 bif@ceres.dti.ne.jp 東京都渋谷区桜丘町6-6-401 〒150-0031 TEL 03-3461-4565 秋山 修治・峰尾 武

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
し り だ たかし 下 田 隆 会員番号 1216 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	シモダデザインルーム 福岡県福岡市中央区平和3-13-5-403 〒810-0016 TEL・FAX 092-524-0301 同 上 sdr @ papa emeil ne. jp 中川 千年・山永 耕平
せ と のり 瀬 戸 昇 会員番号 1217 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	エーディコア・デバイス 東京都渋谷区広尾2-13-2 〒150-0012 TEL 03-5778-3341 FAX 03-5778-3339 神奈川県横浜市中区仲尾台53番地ユーロハイツ山手304 〒231-0839 TEL 045-625-3592 seto @ adcore. co. jp 川上 信二・山永 耕平
あ お の ごうそう 青 野 剛 三 会員番号 1218 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	長野県南佐久郡八千穂村穂積1326 〒384-0702 TEL 090-2728-2123 長野県佐久市平賀605-6-302 〒385-0034 TEL・FAX 0267-62-7994 須長 壮太郎・岩崎 真里子
て ら た と も こ 寺 田 智 子 会員番号 1219 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	ATELIER TOMO 京都府京都市右京区鳴滝音戸山町4-59 〒616-8255 TEL・FAX 075-464-7721 同 上 to6020mo @ eb. mbn. or. jp 中村 隆一・夏原 晃子
ま つ だ ら よ み 松 田 千 代 美 会員番号 1220 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	静岡県清水市庵原町586-16 〒424-0114 TEL 0543-64-6200 FAX 0543-64-9972 静岡県静岡市庵原町1508-3 〒424-0114 TEL 0543-66-2141 秋山 修治・峰尾 武

会員 佐藤 均君を悼む

関東支部会員 小畑次郎

平成14年6月10日享年62歳で佐藤均君は胃癌で此の世を去った。

彼は、昭和27年に秋田市が物造りの若い世代を養成する為に創立された秋田市立美術工芸専門学校、現在は秋田公立美術工芸短大附属高等学校のインテリアデザインの講師として、学院設立当時の木工技術主体の教育カリキュラムにインテリアデザインの基礎知識と感性を習得させる実技のカリキュラムを加え、インテリアデザイン教育のルールを敷き、その指導と教育に生涯の大半を費やした。

地元のインテリア業界に彼の薫陶を受けた卒業生を数多く送り込み、教育現場と業界の橋渡し役も果たした。

根本的な人間の生き方を見つめ、物の有り様について問いかけながら形を造ってゆくデザイン指導は生徒達を始め周囲の人々にも感銘を与えたと聞いている。平成13度の卒業制作時期には病の為に生徒の指導は出来なかったが、卒業制作展示会の生徒作品は、日頃の指導が作品制作の姿勢に良く生きており、展示会では関係各方面の高い評価を受けた。「本人に見せて上げられなかったのが残念でたまりません。本人も、さぞ無念だったでしょう」と、ご夫人の言葉であった。

私と義兄で昭和39年に現在の会社を創立したが、彼は41年から52年迄インテリアセクションを担当しその才能を発揮してくれた。藤沢市の私の自宅で時々寝起きを共にしたが、小さかった私の子供達に折り紙を折ってくれ、子供達が「カメ」「ウサギ」と望むとススーと可愛い形にしてくれるのに家族は驚嘆し、子供達は「折



り紙のオジサン」と慕っていた。

お通夜の席で「今度は人さまの為に尽くしてきたから、此の病が治ったら好きな事をして暮らしたいな」と申しとおりましたと、お線香の煙りが静かにゆれるのを見ながら均君の暢子夫人はひっそりと話された。

「職業奉仕」を基本理念とするロータリークラブが世界各国にあるが、彼は秋田の地域に根差し、デザイナーとしての誇りをもち「教職」としての職業を通じて地域に奉仕をしたと私は考える。彼は今少し此の世に止まりデザイナー自身として仕事をしたいと心残りもあっただろうが「デザイナーとしての教職」が天職であった。

私もやがて此の世を去りあの世で佐藤均君に逢った時、云ってやろうと思っている「君の生涯は天職を全うしたものだったよ」…と。 合掌

訃 報

正会員 松田 博様 (関東) 平成13年7月14日没
享年49歳

正会員 佐藤 均様 (関東) 平成14年6月10日没
享年62歳

正会員 浅野正道様 (関西) 平成14年7月1日没
享年72歳

正会員 仙石卓三様 (関西) 平成14年9月6日没
享年69歳

以上の方々がお亡くなりになりましたのでご報告いたします。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局

2002/9~10

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2002年通巻219号) 2002年11月30日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/本部情報委員会 制作/be-one